

品川宿 会報 みこしだこ 2019年 新年度版

2019年5月発行 第53号

● 法政大学大学院デザインスタジオ作品発表会 ●

品川宿周辺を対象とした大学または大学院生による作品の発表会の歴史は古く、平成10年に日大生による「品川宿再生計画」、平成15年は法政大陣内研究室と一橋大、その後明大、早大と続く。特に法政大は毎年のように永瀬克己先生そして陣内信秀先生が続けてくださり、今年

からは北山恒先生に引き継がれた。今年2月3日(日)16:30から「時間の連続性、空間の連続性、人間の連続性」をテーマに「そば処いってつ」に於いて行われ、大学関係者とまちの方々合わせて約30人が参加、このまちの可能性について21:00過ぎまで熱心に意見交換がなされた。

【発表会の概要】山の手通りから品川浦までのエリアを1/200の模型化、そこに寺チーム、商店街チーム、ウォーターフロントチームが14のプロジェクトを展開した。各計画は全体の中できちんと位置づけられたうえで細部までデザインされ、プレゼンテーションも大変分かりやすいものとな

り、質疑応答も活発に行われた。私たちのまちに、先生方と学生さん達の膨大なエネルギーが注がれた。【計画のコンセプト】学生さん達に200字を目途に書いて頂いたものを転記。(敬称略)発表順 ○は就活のため来品出せず発表なし。

「明治維新in品川宿」特別展を終えて

昨年2018年が、明治維新から150年目という節目の年に当たるところから、品川区の文化スポーツ振興部からお話をいただき、品川宿交流館で1年間にわたる特別企画展を実施することになった。そこでまず、品川宿と明治維新との関わりを整理してみると、テーマが非常に多方面に渡ることになって改めて気付かされ、次のようにテーマを大きく4つに分けて展示を展開することとした。《第1期》「品川宿を駆け抜けた、維新の人々」2018年7月1日～8月31日 《第2期》「世直し、御一新の嵐が吹き荒れた明治維新 品川宿七大騒動」

2018年9月4日～10月31日 《第3期》「開国を迫る諸外国、その時、品川宿は……品川御台場物語」2018年11月9日～2019年1月22日 《第4期》「品川宿で産声を上げた近代日本 品川宿は文明開化のテーマパーク!」1月24日～3月31日 またこの展示に連動させ、街道文庫の田中義巳さんをお願いして「ワークショップ(座学)とまち歩き」を月1回のペースで全9回実施した。これはパネル展示の平面的な情報を実際のまちに残る歴史遺跡と結びつけながら、明治維新を立体的に理解するプログラムで、毎回15名前後(30名を超え

る回もあった)の参加者があり、大変に好評をいただいた。10月27日には、六行会の全面的なご協力をいただき「シンポジウム」を開催。品川郷土の会長で元品川歴史館学芸員の坂本道夫さんに基調講演を、新選組刀剣研究家の権東品さんに特別講演「新選組と品川宿」をお願いし、その後のパネルディスカッションには品川歴史館学芸員の佐藤友理さん、街道文庫の田中さんにもご参加いただいた(司会進行・佐山)。こうしてお名前を上げると、坂本さん、権さん、田中さん、皆さんまちづくり協議会のメンバーで、こうした面々で「明治維新」という大きな歴史テーマのシンポジウムが開催できるのだ

から、品川宿の持つポテンシャルの高さ、人材の豊富さは並大抵ではないと、つくづく実感するのだった。そしてこの一連の活動の締めくくりとして冊子「明治維新in品川宿」(B5版26ページ、1万部)を発行することができた。この冊子は現在交流館で無料配布中なので、ぜひ一読いただきたい。私たちのまち品川宿がいかに多くの歴史物語と歴史遺産を持つ、いかに恵まれた地域であるかということとをきっと再認識されることと思う。最後に、この特別企画を持ちかけてくださった品川区のご担当者各位に、そして事務局の竹中君、和田君に深く感謝したい。 企画制作担当・佐山吉孝

①渡辺道也(北山研究室)「寺子屋一縁」



地域の生活動線を抱える法禅寺に町の未来を語り合う場としてTMO(タウンマネジメントオフィス)を計画した。現代、お寺離れ廃寺駐車場化といった問題を抱えたお寺は今後の在り方が問われている。そこで境内に話し合いの場となるホールと町の歴史を継承するミュージアムを縁側のある大きな軒下空間を囲んだ、地域の寄り合い所を設計した。自らの生業と町の歴史を活かしたまちづくりを考える拠点として現代の「寺子屋」が始まる。

②吉久香鈴(渡辺研究室)「地域コミュニティを補完する隙間ギャラリー」



古くから寺社地や木造密集市街地をもつ地域の利点はこの地に所縁のある人を呼び寄せる力だと考えます。木造住宅の一部を普段気なく通り過ぎる都市ヴォイドに対して親しい人を招き入れ交流や交換を行う趣味の場＝ギャラリーとして解放します。内外の境界を日本の伝統的な建築要素を用いて多様かつ柔軟に操作します。従来の閉鎖的な住宅の中に地域との居心地の良い接点を創っていく事が近未来都市への第一歩になると期待します。

③河合菜琳(赤松研究室)「参道を再考する」



寺の参道に、地域食堂の提案をします。学童に通う子供や旅館の宿泊客など、異なる境遇の人々が同じ場所に集い、家族のような、食を共にする小さな共同体を形成することで、新たなコミュニティの形成を計ることを目的としています。ここでつくられていくコミュニティはかつて賑わっていた参道がまた明るさを取り戻すことを促し、出来上がった人の輪は防災や見守りの面で役に立ちます。

④成本匠(渡辺研究室)「街の接続詞」



北品川の街の隙間に魅力を見出し、人々の居場

所を生み出す学生案の提案。土間空間や立体的に設置された縁側テラス空間により、住人や観光客の関係性を生み出し、同時に、建築に住まう学生たちが、街に散らばり地域を活性化させながら、人々の関係を繋いでゆく。他の設計作品のデザインコードを取り入れながら建築形態を決定してゆく。提案は、街を繋ぎ、人を繋ぐ建築となる。

⑤岡本ひかり(北山研究室)「水辺を繋ぐ、人のための道路空間利用」



東海道五十三次にみられるように、かつて北品川の水辺空間には人が豊かにぎわっていた。しかし現在は自動車道により水辺とまちが分断され、人の活動はみられない。一般道や都道の利用率が停滞しつつある中、自動車道を人のための空間として設計することで、多様な人による多様な活動を循環させる。長屋単位を連続させた箱の中に道具があり、時間帯別にまちの活動に合わせて道路に溢れ出す。すると水辺とまちを繋ぐ暮らしが蘇る。

⑥矢加部翔太(渡辺研究室)「微所有する暮らし」



設計対象の街区は、車の通らない細い道や複雑な街区の形成により奥性を持つ空間となっている。さらに、密な住宅の集合によって、他者を拒み、閉じきった街区となってしまう。そこで、老朽住宅をはじめとした延焼ハブを取り除くとともに大きなアジュール空間を中心に持つ街区設計を行う。アジュール空間に対して建築や道が応じ、人々のふるまいにも変化が生まれてくる。人々が街区全体を微所有する暮らし方を提案する。

⑦丸山一樹(渡辺研究室)「健創する暮らし」



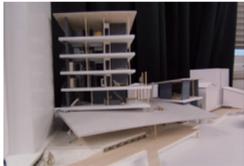
商店街やその周辺に住む高齢者のよりどころとなるようなウェルネス施設。商店街で健康づくりをする人のための拠点となる。高齢者のための住居は、高齢者同士のネットワークもつきます。

⑧樺進之介(北山研究室)「移動と滞留の間のアーキテクチャ」



北品川の運河は、建物は運河に背を向け、人々は水辺へアクセスすることができない状況にある。そこで船宿らしい丸の敷地を対象に、水に顔を向けた駅のような交通拠点となる場を提案する。陸路の基軸として機能する品川駅、空路のハブとなりつつある羽田空港、さらに水路を活用することで東京湾の水辺がネットワークしていく。多様なスピードが重なり合う北品川だからこそできる「移動」を基点に東京における新たな都市像を描いた。

⑨川端宏斗(北山研究室)「街区に水は浸透する」



運河という資源が近くにあるにもかかわらず、建築が閉ざしている。水の恩恵を受けるように屋根付きの外部空間を水際に作り、水環境を行き渡らせるように大きな立体ヴォイドを街区の奥まで貫通させる。そのヴォイドを支えるように同一のストラクチャーで構造をサポートし、それだけでなくそこで行われる様々な行為もサポートする。水辺から風や音が街区の奥まで運び込まれ、あるべき水際の暮らし方を提案した。

⑩呉 沛綺(ゴベイチイ)(下吹越研究室)「都市農園IN BETWEEN」



旧東海道を人間のための街にした上で、公と私の間(in between)に小さな農園を設置するという提案です。昔の風景と人の繋がりは都市の建て替えの中でだんだん失っていると思います。農園の設けることによって、人と人の触れ合い機会が増える街になると期待しています。

⑪丸山泰平(渡辺研究室)「工房付き舟屋」



北品川船宿りは屋形船関係者の限定的なコミュニティが作られ、生活と運河が疎遠になった。経費

削減のための係留杭共同建て替えがそのコミュニティを維持していると考え、その廃材を利用した地域工房を提案する。運河の環境を生かして快適な空間を作り、自ずと人が集まるような地域の拠り所とする。船運が普及した近未来で職近接が実現した時、この建築は地域の作るという活動をサポートし、水際を人々の活動で彩っていく。

⑫井上莉紗(北山研究室)「まちの収納庫-コモンズを生み出す集合形式の提案」



品川は昔、井戸という地域資源を共有し、家族のような関係ができていた。時代は流れ、その関係は崩壊の一途を辿る。そんな人々の関係を建築で補完し現代なりにつながりを再編する。プログラムは街の収納庫つき集合住宅。公園の公共ヴォイドを中心にそこに付随させる形で三つの建築が点在する。一階部分に街の人々の使わなくなったモノを収納し、住居が一階を使う時はシェア。地域住民が使用するときにはレンタルと、小さな経済が生まれるシステムを提案する。

⑬木下将吾(赤松研究室)「つぎはぎロビー」

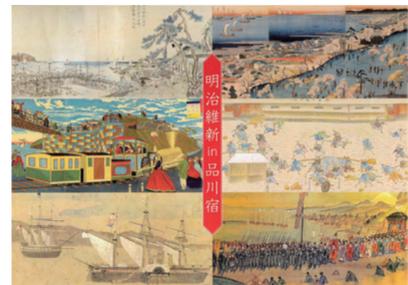


品川と北品川の結節点となるこの場所を北品川のロビーと捉え、北品川の要素を抽出したものをロビー空間を構成する要素と置き換えながら、北品川の一番の特徴であるパッチワークとなる建築を目指した。大屋根をかける事でゲートの様に象徴的かつ空間に一体感を持たせた。この建築は機能を持った船がプラグインされる事で用途が劇場やシアター等、船の機能によってこの建築での人の振る舞いに変化する。

⑭岡崎卓(赤松研究室)「ENERGIE CYCLE STATION」



かつてはゴミ捨て場の規模で、コミュニティが形成していたのに対して、現在は毎日出るゴミが家の前で回収され、ゴミの行方はどこか知らず、日常のコミュニティ形成のきっかけの一つが失われていると考えられる。日常の些細なものを媒介に、緩やかにコミュニティを維持していくことが必要であると考え、そこでテーマを「エネルギー」とし、日常的に出る生ゴミ、木製家具の粗大ゴミを扱い、木密地区のゆるいコミュニティを維持する家具工房付きアパートメントを提案する。



冊子「明治維新in品川宿」、各回の展示ノートは品川宿交流館にて入手できます(無料)



品川宿周辺の観光名所等説明板リニューアル!

品川礎会により各地に取り付けられていた名所旧跡案内看板やまちづくり協議会が街道松につけた看板を取り付けてから、20年もの時を経て経年劣化が著しくなったため、この度品川区の全面的な協力の下、品川礎会・

(一社)しながわ観光協会・まちづくり協議会が協力をして案内板10ヶ所、街道松の看板5ヶ所をリニューアルし、設置しました。新看板の特徴は、雨による劣化を防ぐため屋根部分に銅板を貼り、アルミ

製のサブ看板にはその土地にちなんだ錦絵や説明があり以前に比べ更にわかりやすくなっています。皆様もぜひ気になさってご覧いただければと思います。今後あと2年をかけて、すべての案内看板をリニューアルする予定です。

また今回、看板製作・設置にあたりまして、快くご協力をいただきました地元材木店・印刷所・工務店・塗装店・板金店等全ての皆様にご協力いただき、心より御礼申し上げます。(大越章光)



【今後の課題】学生が制作した模型やパネルの保管場所が無いためすぐに廃棄される。今回、全体模型は一旦北山先生の研究室に保管されたが、出来ればまちに保管場所を確保したい。会場使用料、設営費、模型運送費等の負担が大きい。今年は品川神社の豆まき行事と重なり、北品川の住人の参加が少なかった。また、学生の就活も重なり、14名のうち5名しか発表が出来なかった。日程調整を慎重に行いたい。(長谷山)

品川宿史談会2018年度の活動

品川宿史談会の講演会では今年度一段と活動の範囲が広がり、講演の内容も郷土史の内奥に迫るテーマを取り上げることができました。全体のテーマは「稗史から正史に」を目標として、一応の成果を上げたと思っています。

第5回(4月1日)「近世から近代における江戸内湾漁師町の展開と変容」南品川漁師町を中心に

講師:明治大学建築家大学院修士修了 吉永ほのみ氏

第6回(7月22日)「昭和の大道芸と物売り」品川の祭りや縁日。昭和の思い出」

講師:日本大道芸伝承家・東京都ヘブナーアーティスト 光田憲雄氏

バナナのたたき売り 日本大道芸の会しげちゃん(今井重美)

バイオリン演奏 楽四季一生

第7回(11月25日)「江戸の御仕置場、鈴ヶ森と小塚原の空間と機能」地域史から見た折りと遺跡

講師:荒川ふるさと交流館 上級学芸員



亀川泰照氏 第8回(1月20日)「明治20年、品川町は新時代の息吹の中で自主理め立て事業をはじめた。」

講師:東京工業大学大学院修士修了・台場小学校卒 樋口尚氏

今年度はテーマに関係する町会の協力をいただき、一般にはホームページでのお知らせなど広報に力を入れた効果で、多くの方に会の存在を知ってもらい、参加者は昨年140%余の盛況でした。懸案の講演録の販売を29年度、30年度と品川宿交流館で行います。(新実正義)



みちで遊び、まちを楽しむ

今回で3回目となった品川宿交流館前～品川橋上までの東海道みち遊び企画。「しながわ運河まつり」の東海道会場として参加しています。普段、車両通行も多い東海道。かつての「道の中心は人である」そんな空間を作りたいと思い、日曜午後の通行止となる時間帯を活用して、橋の上では音楽が流れ、カフェ、マルシェ、ワークショップを楽しむ、交流館前では子どもたちのみち遊びをまちの人たちが見守るような優しい空間となりました。

「みちに絵を描く」。ひと昔前までは日常の風景も今では叱られる行為。最初は恐る恐る小さく絵をかく子どもたちも段々とカラフルになり道を彩ります。通行止時間が終わり、東海道を通り過ぎてゆく車のタイヤに移った子どもたちの彩が、どこか遠くへと旅立ってゆくようでそれもまた楽しい風景です。(和田富士子) thanks to 品川橋通り街灯会、北品川商店街、しながわ運河まつり実行委員会



品川・ジュネーブ友好都市交流イベント

4月8日(月)品川・ジュネーブ友好都市交流イベントとして、「スイス・ロマン管弦楽団 カルテット演奏会」が、品川寺にて行われました。

厳かな雰囲気の中での声明に始まり、一流の奏者による演奏会、スイス大使館の皆様をはじめとした国際色豊かな交流会、音羽ゆりかご会の子どもたちによる合唱が行われました。

今回のイベントに先立ち、青物横丁商店街ご協力のもと、ジュネーブ紋章デザインの商店街ペナントを設置して、歓迎ムードを演出させていただきました。また、地元の子どもたちが、本物に触れる機会をつくりたいという想い

から、東海中学校吹奏楽部の生徒たち15名をご招待させていただきました。梵鐘贈還90周年を迎え、今後ますます友好都市交流の絆を深める取り組みを企画していきたいと思ひます。(竹中茂雄)



ブラインドサッカーワールドグランプリ 2019

IBSA(国際視覚障害者スポーツ連盟)ブラインドサッカーワールドグランプリが、天王洲公園にて開催されました。3/19~3/24の6日間、日本、アルゼンチン、イングランドなど8カ国が、熱戦を繰り広げました。

目が見えていないとは思えないほどの激しいプレーや、どうしてそこにパスができるんだ!? という驚きのプレー、そして、国を背負って戦う全力プレー、感動の連続でした。スポーツの見方が変わるすばらしい観戦体験となりました!

イベントへの協力として、選手をエスコートする「エスコートキッズ」を、品川区少年サッカー連盟と協力してコーディネートさせていただきました。平日に開催された開幕戦は、アルゼンチン代表とタイ代表チームを、それぞれ品川第一地区と第二地区の町会長が半纏を着てエスコート! その他の試合

でも、リリーさん率いるハウディカントリーダンサーズにお手伝いをさせていただくなど、品川宿らしい企画でご協力させていただきました。

オリンピック・パラリンピックを迎える2020年の3月にも、第3回ブラインドサッカーワールドグランプリが開催される予定です。これから1年間かけて、品川宿らしい盛り上がりをつくっていきたくと思ひます!(竹中茂雄)



SHUKUBA HOTEL

ゲストハウス品川宿は今年3月に既存の運営施設をSHUKUBA HOTELというブランドで統合しました。今回はその施設の中でも民泊について少し触れていきます。まず、民泊のポイントの一つは「有人か無人か」ということです。基本的な民泊の考え方としては誰かが住んでいる場所を間借りするというものですが、巷で爆発的に増えた民泊は、その場所にはだれも住んでおらず、鍵の受け渡しもセルフという無人を想定した空き部屋活用でスタートしたものがほとんどです。



民泊新法施工後、ゲストハウス品川宿が昨年9月にオープンした民泊施設「Kago34」はその二つのハイブリッドです。施設自体無人ですが、受付や滞在中のサポートは隣のゲストハウスで行い、緊急時には品川宿エリアに居住するスタッフがすぐに駆け付ける仕組みです。今後も宿場づくりの一環として、このようなハイブリッド型民泊を法令順守のうえ地域住人の方々のご理解を頂きながら、クリーンにすすめていきます。(株)宿場JAPAN 渡邊崇志

東海道品川宿FC

地元品川区で「スポーツを通じた、人をつくり、まちをつくり、文化をつくり、品川と世界をつなぐクラブづくり」を理念に立ち上げたクラブも創部4年目を迎えることができました。今年度から高校生のユースチームが発足しました。これで、幼児から大人までの一貫したフットサルを楽しめるクラブができました。トップチームは、昨年度《東京都フットサルオープンリーグ》で優勝しました。さらに3部参入戦でも全勝して、今年度から《東京都フットサル3部リーグ》に昇格することができました。たくさんの方が応援してくれる中での勝利することができました。

いながわ運河まつりでは、「大人のソサイチックス大会」、「しながわ運河まつり杯U10」、「FC品川体験会」、「東海道品川宿FCスクール体験会」を行いました。しながわ運河まつり杯U10では、8人制のサッカー大会を行い、地元「品川JSJC」「御殿山シューキョーズ」「台場コスモス」「城二ユナ



4年目に突入!<わいわい晩ごはん>

参加者20名ほどだったのに、現在では70名を超えることもあり、スタート当時、年少さんだった子どもたちも今春から小学生。こんなに勝手に悪い晩ごはんなのに、どうして毎月来てくれるのか?この会の楽しさは何か?ちょっとママさんとサポーターに聞いてみました。

《わいわいばんごはん会の楽しみ》みんなで食べることが大好きな私の耳にとっても心地よいネーミングにひかれて早速参加しました。ごはんと汁物が用意されているところへ、自分のおかずを持ち寄って食べる会という形式で、「うちも食べてみてね、お宅のおかずもつまませて」という思いでした。持っていったものがあつという間に売り切れになるのを見たとき、料理好きの魂にメラメラと火が付きました。以来、毎月、コロッケだのハンバーグだのから揚げだの、そして一番人気の乱切りきゅうりの塩もみだの、60個を目安にせつせつと作っては運んでいます。1個ずつですよ!と言いたくないので、今後ますます量は増えていくと思ひます。(ボランティアサポーターのあーちゃんという品川のおばあさん)

《子ども達は毎月楽しみにしているわいわいごはん♪》

保育園のお友達と一緒にご飯が食べられるのが嬉しいみたい!「今日は何があるかな~お母さん今日はなにをもって行くの?」と聞いてきたり、おかずを作っていると手伝ってくれたり♪ 優しいおばちゃん達が見守ってくれる中、自分でおかずを選んで「これなに?」とコミュニケーション! いつも家では残しがちな食材もわいわいごはんだと挑戦してみたり、凄じ量を食べてビックリさせてくれる子ども達! お腹が満たされると子ども達は思い思いに遊び、友達と夜まで一緒にいられることが楽し嬉しい様子! 親は手抜き出来るし、種類多目のおかずが食べられるし、美味いおかずに出会えたらお料理の勉強になったり! みんなでわいわいと食べるごはんは美味しい!! 家だと「早く食べなさい」と怒りがちだけど、わいわいごはんに来るとみんなが子ども達を見てくれるから、息抜きできたり、「久しぶり~」と友達に会えたり出来るのもわいわいごはんの良さだったり!! わいわいごはんはお腹も心も満たしてくれるそんなところだと私は思ひます♪ (2人の子供と毎月参加してくれるママさん)



welcome!! まちの新しい顔

select (高級雑貨店)

「日本の伝統である土産の文化を世界に届けたい」という想いから日本の逸品をご案内。南品川1丁目7-21

茶箱 (日本茶カフェ)

急須で入れる美味しいお茶と、和菓子職人がつくる創作和菓子をお楽しみ。南品川12丁目11-5

束の間 (レンタルスペース)

絵画、写真、工芸品等の展示、物産展、ワークショップ、会議、その他創意・工夫をご利用ください。南品川12丁目12-6